

『金剛地区活性化シンポジウム』～みんなで考える金剛地区の未来～のご報告

1. 開催概要

○ 開催日時 : 2016年3月13日(日) 13:30~16:10

○ 場 所 : 金剛団地中央集会所2階

○ 参加者数 : 81名

○ プログラム

主催者挨拶 北野 俊夫(富田林市まちづくり政策部 部長)

第1部 基調講演・報告

「ニュータウンにおける課題や取り組みについて」 増田 昇氏(大阪府立大学大学院 教授)

「金剛地区の現状に関する調査結果等について」 坂口 公一(富田林市まちづくり推進課)

第2部 実践報告

「泉北ニュータウンにおけるすまいるセンターの取り組み」

西上 孔雄氏(NPO法人 すまいるセンター 代表理事)

「金剛ニュータウンでの子育て支援の取り組み」

岡本 聡子氏(NPO法人 ふらっとスペース金剛 代表理事)

第3部 パネルディスカッション「金剛地区活性化に向けてみんなで考えましょう」

司会: 増田 昇氏 パネラー: 西上 孔雄氏、 岡本 聡子氏

2. 当日の様子

○ 展示



○ 会場の様子



○ パネルディスカッションの様子



3. パネルディスカッションでの質疑応答・意見交換の内容【概要】

- ・「ふらっとスペース金剛」さんのような団体が、どうやって戸建て住宅を探して、借りられたのですか。
⇒多くの知り合いに声をかけて探しました。私たちは子育てサークル、富田林市が実施している講座の受講生、泉北生協のグループが1つに集ってできた団体です。法人格がないと契約主体になれなかったため、NPO 法人を取得するまでは泉北生協が大家さんと賃貸契約を結んでくれ、そこに家賃を払う形をとっていました。(岡本氏)
- ・発表で紹介されていた、府営団地での高齢者住宅（サポート付共同住宅）は何階でやっていますか。
⇒共用施設は1階で、それ以外は2～4階を使っています。エレベーターが無いので、要支援1・2、要介護1・2くらいで、自力で階段を上り下りできる方に利用いただいています。(西上氏)
⇒やはりリノベーション（改修）での対応は限界がありますね。賃貸住宅に住む足腰の弱い方には、同じ建物の中で引越しをサポートする緩やかな移動の仕組みができないかと考えています。(増田氏)
- ・都心回帰^{※1}が起きるなか、都市部には無い、郊外ニュータウンが持つ利点について教えてください。
※1 都心回帰：かつて郊外に流出した都市部の夜間人口が都心部に回帰している現象
⇒都心に魅力を感じる人がいるように、郊外に魅力を感じる人もいます。ニュータウンは50年弱の歴史しかなく、まちにまだ色が付いていないので、いろいろな色をつけられる可能性を秘めています。(西上氏)
- ・泉北ニュータウンと金剛地区では状況が違うと思いますので、その違いについて教えてください。
⇒全国のニュータウンでは、速度は異なりますが、同じような問題がおきていると思います。問題は、商店街の弱体化、少子高齢化、公的賃貸住宅の老朽化、コミュニティの希薄化などです。(西上氏)
⇒金剛地区と泉北ニュータウンでは、大きく三つの違いがあると思います。
 - ①泉北ニュータウンは府営住宅が中心で、金剛地区は全てUR 賃貸住宅です。府営住宅は比較的長い期間住んでいる人が多いが、UR 賃貸住宅は一定割合で住民の入れ替えが多いのが特徴です。
 - ②泉北ニュータウンの場合、駅前に近隣センター^{※2}よりも大きな地区センター（商業施設など）があります。金剛地区は駅前が市境界に位置しており、地区センターがありません。
※2 近隣センター：食料品・日用品等の商店や、交番・郵便局などの住民サービス施設が集積する場所
 - ③堺市は単位自治会を束ねた校区自治連合協議会、全市の連合協議会と段階的に組織されています。一方、金剛ニュータウンでは、自治会を束ねる連合協議会のような仕組みがなく、そこにコミュニティの仕組みの違いがあると思います。(増田氏)
- ・富田林市には校区単位の自治会連合はないが、市全体の自治会等を束ねる町総代会があり、貴重な財産だと思います。
- ・金剛団地は寝る・住むことだけを考え移り住んだ人が多く、それが今、限界を迎えていると思います。
⇒全国のニュータウンは、非常に短期間で機能的なまちを建設し、短期間で販売したため、同じ年齢階層・所得階層の人々が集中しました。これからは、他のまちとの違いをいかに発掘していくかが非常に重要になると思います。(増田氏)
- ・問題解決への取り組み方として、まちを作ったときのように短期的・機能的な方法ではなく、長期的に取り組むべきと思います。
⇒金剛地区の活性化にむけては、長く時間をかけ、徐々に転換させながら取り組んでいく必要があると思います。出来上がったものを共有するのではなく、プロセスと時間を共有していくことが大事だと思います。(増田氏)

- ・このような会合は素晴らしいので、あらゆる問題について今後もやっていただきたいと思います。
- ・地域住民が地域のことを考える気持ちを持つことが大切ですが、市民はまちづくりを自分の問題として認識しにくく、「活性化」とはどんなまちか、じっくりと考えるべきだと思いますが、まちづくりに主体的に取り組むにはどうすればよいでしょうか。
 - ⇒自分自身が困っているときに課題に気づき、問題に対して、主体的に取り組むきっかけになると思います。一步を踏み出すためには、小さくてもまちの中に集える居場所がたくさんあることが大切で、愚痴をこぼしたり、困りごとを気軽に話したりするところから様々な取組が始まるのではないかと思います。(岡本氏)
- ・金剛団地はエレベーターがないことが課題だと思います。建替えて空いたスペースに施設を建てるのは難しいと思いますが、設備やコンクリートの耐用年数を考えると、リノベーションだけで対応できるのでしょうか。
 - ⇒日本の不動産は新築の値段が最も高く、年月が経つと価値も下がるが、海外では、中古住宅をリノベーションして、不動産価値が高まるのがあたりまえです。日本でも、状況は少しずつ変わりつつあるので、長く使いこなせることがよいのではないかと思います。(増田氏)
- ・市民だけでなく行政を巻き込めば、もっと強力に問題解決に動けると思います。
- ・団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年と、消滅都市が危惧される 2040 年のそれぞれを見据えた議論をしていく必要があると思います。
 - ⇒まちの消滅を防ぐには、住民自治として互助・共助の関係をつくり、住み続けられるまちにしていくことが最大のテーマだと考えています。私たちはコミュニティビジネスというモデルを用いて取り組んでいますが、複数の取り組みを組み合わせることで、地域で持続可能なサービスを提供しています。単体の NPO だけでなく、自治会や地域の企業などを巻き込み、地域に関わる全ての人に関わってもらいながら構築できるかが一番の課題だと思います。(西上氏)
 - ⇒コミュニティビジネスは公的サービスのアウトソーシング(外部への委託)でもあり、財源の多くは、公助でもあります。まちには、自助・共助だけでなく公助も必要だと思います。(増田氏)
 - ⇒地域包括ケアシステムでは、見守りや配食を NPO や自治会にお願いする形になっており、結局コミュニティビジネスのような形で運営しなければ、成立しなくなると思います。(西上氏)
- ・日本で行われてきた減築の状況について教えてください。
 - ⇒堺市の UR 向ヶ丘第一団地では、実験的に 5 階建てを 3 階建てに減築しています。減築は、維持コストと減築に伴うコストを長期的視野で比べたときにとりうる手段です。土地の需要がなく、土地の売却費を工事費に充てられない場合は、課題だと思います。(増田氏)
- ・様々な主体を紡ぎ合わせ、地域力に繋げるということについてどのようにお考えでしょうか。
 - ⇒この地域で、安心して緩やかに老いたいと考えたとき、多様性を受け止める柔軟性を 1 人 1 人が持つことが大切だと思います。自分がここにいていいように、自分と違うものを受け入れていく姿勢と覚悟のような。これからもソフト面に力をいれて取り組みたいと思います。(岡本氏)
 - ⇒地域で活動を続けるには、NPO・地縁団体などが連携して活動する拠点と住民が自由に使える場所をつくる必要があると思います。また、まちの活性化など同じベクトルを共有した協議会を作る必要もあると思います。その協議会にいろいろな立場の人が関わる地域の合意体があれば、地域で何かやりたいと思った人の実践のきっかけの場になると思います。(西上氏)
- ・本日、非常に有用な要望やアイデアをたくさんいただいたので、皆さんが目を通せる状態にしていた

だき、また平場で議論する場を継続的に持てるよう、富田林市にお願いしたいと思います。これからは、機能の混在、異分野の複合がテーマになると思います。行政、自治会、NPOなどは、それぞれが特徴を持っているので、まずはその差を認め合うことが大事だと思います。その上で、お互いどう補完しあえるのか考えてほしいと思います。そのためにも、自由な情報交換ができ、新たな行動の発生起点になるようなプラットフォーム*づくりが必要だと思います。ただ、あまり急がず、できることからゆっくりと考えてやってほしいと思います。大きな目標を共有し、細部は歩みながら考えるというように金剛地区の取り組みが徐々に深まり・拡がり・高度化していくことを望んでいます。(増田氏)
※プラットフォーム：地域団体や住民、事業者など多様な主体が自由に情報交換、意見交換できる場

4. 参加者のみなさんからの「金剛地区活性化にむけたご意見」

シンポジウム終了後、参加者のみなさんからアンケート形式で「金剛地区活性化にむけたご意見」を募集しました。いただいた意見等を項目ごとに整理して紹介します。

◆ 「金剛地区活性化」の考え方等

- 建物を建替えるのか、それとも現状のままなのかの前提を考えては
- 市域にこだわらない考え方、市域全体の視点で考えては
- 自治体中心となった各地区の活性化、地区間の連携（互いの生活を見直し、真剣に取り組む）
- 市の中枢機能を金剛地区など市西側に移すなどの大胆な考えを
- UR との強力な連携を
- 地域住民のアイデアを都市計画等に落とし込んだコントロール（用途地域の変更など）
- スマートエイジングシティ
- 団地の建替えなど、市の考えと金剛地区活性化のアピール
- 若い世代からの意見を

◆ 住民とともに進めるまちづくり

- 青少年スポーツセンターを多世代が利用できる施設として改修してはどうか。その施設づくりを「エリアマネジメント主体の構築」のスタートとしては。
- 金剛地区の活性化に向けて実行する人材の発掘・調査が必要。
- 何から始めればよいのか考える機会を。今後もこのような集会やシンポジウムの開催が大切。

◆ 地域活動・地域住民のつながり

- 金剛団地自治会を校區別にわけ、特色を活かした交流活動を。
- つながりをどう作るかが大切。
- 高齢者の毎日の食事や買物が大変だと聞いているので、近所のつきあいが大切。

◆ 多世代が集う場・イベント等

- 異世代での交流（ふらっとスペース金剛と高齢者との交流、高齢者と子どもが集う広場など）。
- 若年層・子供に地元愛が根づくようなイベント。
- 集会所や空き店舗を活用したマルシェや朝市などで、多世代がちょっと話す場にしては。
- 集いの場は内容が大切。
- 老人が話し合える場（地区のお年寄りの方の今までの人生を語る会など）。
- 若年層の参加を促す。

◆ ピュア金剛（公設市場）跡の活用

- 地域の拠点となる施設（スーパー、コンビニ、飲食店、カフェ、コミュニティスペース etc.）。
- 金剛団地の中心地なので、診療所や保育所、ミニスーパー、朝市の出店など。早い実行を。
- マルシェなど不定期であっても活用できたらよい。

◆ 生活利便施設や交通サービス等

- 駅前の活性化や商店街の復活。
- 高齢者もつかえるようなショッピングセンターの誘致。
- 金剛～富田林間のバス運行。
- 移動困難者に対するデマンドバスの導入、バス停の増設。
- 高齢者一人ひとりの住まいを把握し、定期的に安否を確認。
- 学校給食・空き教室を活用した高齢者向けコミュニティ食堂の運営。

◆ 子育て・教育の支援

- 特徴のある小学校（英語がすごいとか）なら引っ越ししたいと思える。
- 通学路の安全・安心、文教の充実。
- 小学生が放課後自由にあそべる場所（例：児童館など）。

◆ 購入・住み替えやすい住宅を

- 住宅の分譲価格はまだまだ高い。
- シェアハウス。

◆ 既存建物の活用

- 金剛地区も減築して空きスペースを作り、活用してはどうか。
- URの空室整備、棟数を削減し、コミュニティセンター等を建設しては、
- URのバリアフリー化、エレベーターの設置。

など

多数のご意見をいただき、誠にありがとうございました。

皆さんからいただいたご意見は、今後の検討に活かしていきたいと思っております。